

教員名 山口 志郎

企画名

スポーツイベントの企画運営(健康サービス企画運営実習)

イベント支援・運営型
自治体・国



企画・活動概要

本プロジェクトでは、赤穂市教育委員会スポーツ推進課と協働で、赤穂シティマラソン大会活性化に向けた社会連携を行った。第1回から第3回までの授業において、教員から市民マラソンの現状調査の報告を受けた後、各自で全国のマラソン大会ならびに赤穂シティマラソン大会の現状分析をまとめ、レポートを作成した。次に、第4回の授業において、赤穂市教育委員会の小池崇之さんより赤穂シティマラソン大会のこれまでの取り組みと現状の課題等についてレクチャーを受けた。第5回と第6回の授業において、実習を行った(第7回目授業:1日の活動であったため、3回分の授業として計算)。3グループに分かれ、1つ目のグループは会場外で給水を行い、2つ目のグループは会場内で給水・給食を実施し、3つ目のグループは実際にランナーとして活動・参加しながら、Go proを使用し動画と写真撮影を行った。

第8回目の授業では、赤穂シティマラソン大会の振り返りと反省会を行い、現場で体験した実習を客観的に各自が評価するよう、個人シートを基にレポートを作成した。第9回から第12回の授業では、グループに分かれ、PCルームにて赤穂市教育委員会への提案資料を作成した。第13回目の授業では、赤穂市教育委員会の小池崇之さんにお越し頂き、グループでのプレゼンテーションを行った。

経緯・背景・目的

本プロジェクトの目的は、赤穂シティマラソン大会を題材に、スポーツイベントの企画運営を学び、実際に行政に対する提案を行うことであった。ボランティアとしてイベントに関わることは多くあるが、イベントで得た課題を実際に行政の方に提案するといった企画は、アクティブラーニングの視点でも大変好的だと考えられる。



取り組み課題

赤穂シティマラソン大会は全国ランニング100選に選ばれる市民マラソンであるが、現在市民マラソンと呼ばれるマラソンイベントは2,000から3,000あると言われ、差別化が困難になっている。特に、過疎化や少子化の問題がある赤穂市にとって、学生の視点から、企画提案を行ったり、現場にて実習を行うことは、流通科学大学にとっても、赤穂市にとってもWin Winの関係であると思われる。そのため、本企画は3年目を迎える。



本学(学生)の役割

赤穂シティマラソン大会当日は3グループに分かれ、活動を行い、実習後は現場で得た課題を基に、5グループに分かれ、行政に対する提案をPPTにて行った。指導教員は、赤穂市との調整ならびに当日のイベント時に、事故や怪我がないか、細心の注意を払いながら、参与観察を行った。赤穂市教育委員会は、授業での講義、現場での指示、サポート、及び授業最終日のプレゼンテーションの審査と多岐にわたる役割を担った。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

活動の成果として、本社会連携は3年目を迎え、赤穂市との関係性が強固になっているのが挙げられる。また、イベント当日は、流通科学大学のブルーのジャケットを着て活動を行うため、赤穂市の方々やイベント参加者に対する流通科学大学の認知度が向上していることが考えられる。

また、学生にとっては、現場実習や行政に対する提案を行う企画は、大変貴重な経験であることから、主体性やプレゼン力、行動力等、様々な能力が本プロジェクトを通し身についたと思われる。



指導教員および関係者の紹介



人間社会学部
人間健康学科
准教授
山口 志郎
(ヤマグチ シロウ)

専門は、スポーツマネジメント、スポーツマーケティング、イベントマネジメント



赤穂市教育委員会
スポーツ推進課 主事
小池 崇之
(コイケ タカユキ)

行政職員として、赤穂シティマラソン大会の事務局業務を行っている。